



10/27～11/9は読書週間です。

今年の標語は「最後の頁^{ページ}を閉じた 違う私^{わたし}がいた」です。

ところで、読書週間って何？ って思っているあなたに説明いたします。

戦後まもない1947年（昭和22年）に、出版社・取次会社、書店・公共図書館、新聞・放送のマスコミ機関が「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」として開催した読書推進行事です。

この時期には、たくさんの本に関する催しが行われます。その中でも最近人気の「ビブリオバトル」を紹介します。



ビブリオバトルって何？



ビブリオバトルとは、本の紹介コミュニケーションゲームです。

ビブリオバトルのやり方

1. 本を持って、3人以上で集まる
2. 5分間を使って自由に本を紹介（ミニ・ビブリオバトルの場合は3分）
3. 質問とディスカッションを行う
4. いちばん読みたくなった本に投票する（自分の本には投票できません）

いちばん票を集めた本が『チャンプ本』です



*家読^{うちどく}：「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書することで家族のコミュニケーションを深める」ための読書活動のこと

面白そうなマンガやゲームを紹介し合うように、本も紹介し合い、それで勝負しよう！ということです。今回は「ビブリオバトル 支援員だより編」ということで、各支援員が面白いと思った本を文字で熱く紹介し合いたいと思います。これを読んで、読みたくなってくれればうれしいです。家読^{うちどく}*でもぜひ活用してみてください

『月の影 影の海上・下』 （十二国記シリーズ）

小野不由美 新潮社

主人公の陽子は、高校でも家でも窮屈^{きゅうくつ}な日々を過ごしている。が、ある日突然、妖魔^{ようま}に襲われ異世界へ飛ばされる。

陽子の世界は一変し、妖魔と血まみれの戦いの渦へ、読者も十二国という怒涛^{どとう}の物語へと巻き込まれていく。

読みだしたら止まらない寝不足本です。



『夢を追う人』

（アラスカの詩）

星野道夫 新日本出版社



少しだけ目をつぶって想像してみてください。波しぶきをたててジャンプするクジラ、氷河の上の真っ白いアザラシの赤ちゃん。私たちが毎日を生きている、同じ瞬間、アラスカではクマの親子が川を渡っているのかも。そんな日々の記録。もし、心がのび~っとするのを感じたら手に取ってみて。

『「死にたい」「消えたい」と思ったことがあるあなたへ』

（14歳の世渡り術）

河出書房新社編 河出書房新社

タイトルを見て「これは私かもしれない」と思った人に勧めたい。強い悩み、不安を「すぐに」消すことは出来ないかもしれない。けれど、その気持ちへの自分なりの対処法が見つかるかもしれない。読んで、明日もまた生きてみようと思ってくれたならうれしいです。

